

青少年交換委員会 委員長 水崎哲男

青少年短期交換受入学生高野山研修

担当：副委員長 米澤 清和

7月19日(木)短期交換受入学生ドイツ人5名、オランダ人3名、チェコ人1名、スコットランド人1名、短期交換派遣学生5名、ロータリアンと家族9名、ROTEX1名、保護者1名の26名で高野山研修を行いました。



今年も高野山ロータリークラブのご協力を頂き、大伽藍、金剛峯寺、奥ノ院を見学しました。高野山ロータリークラブの皆様には、当日の移動のためのマイクロバスの手配、英語の解説が出来る僧侶やガイドをご紹介頂き、受入学生達も十分研修を理解でき、学習できたこと

を、この場をお借りし御礼申し上げます。仏教の歴史や仏教の教えを英語で説明してもらい、それを通じて、日本とは、日本人の物の考え方、日本人の精神を理解することができ、受入学生だけではなく、派遣学生の日本の高校生にとっても、意義のある研修であったのではないかと思います。また、昼食は蓮華院にて精進料理を頂きました。精進料理の意味、料理の内容も英語のできるスタッフに説明してもらい、関心しながらおいしく頂いていた様です。当日、涼しい高野山を期待しておりましたが、34度の猛暑日でヨーロッパからの学生たちは少し疲れたようでしたが、受入学生にとっては、日本、日本人を知ることが出来る、とても意味のある研修でした。



青少年短期交換受入学生歓迎会

青少年交換委員会 副委員長 米澤 清和

7月21日(日)大阪天王寺都ホテルにて、短期交換受入学生、ドイツ人5名、オランダ人3名、チェコ人1名、スコットランド人1名を迎え歓迎会を行いました。

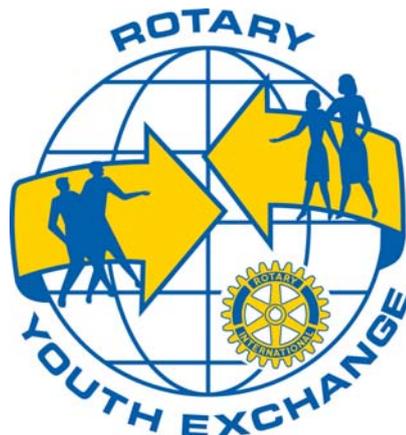
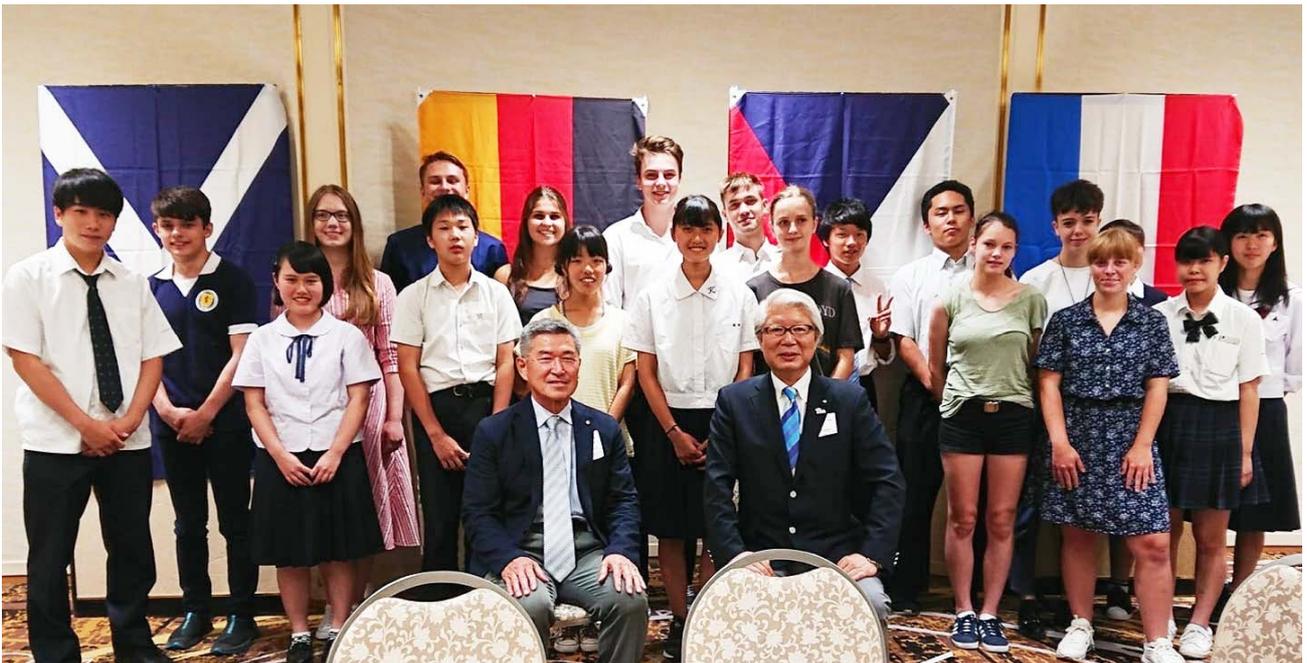
多くのロータリアン、保護者、学校関係者の方々にご参加頂き、総勢58名の賑やかな歓迎会となりました。

まず最初に、樫畑ガバナーの開会のご挨拶では、突然に英語でのスピーチをお願いしたにもかかわらず、受入学生たちに心温まる歓迎の言葉を各国へのご自身の思い出をまじえ、英語で語っていただき、学生たちは熱心に聞いておりました。ケーキとソフトドリンクの休憩

の後、受入学生がそれぞれ5～6分のスピーチをしました。スピーチではそれぞれ日本人派遣学生とペアになり、受入学生の英語でのスピーチを、日本人学生が通訳する形で行いました。

ほとんどの学生が日本に来て10日から2週間が経っており、日本でのいろいろな経験したこと、日本の食事、文化などを語っておりました。日本人学生と協力して、スピーチを考え、訳して、発表しており、悪戦苦闘しているペアもいましたが、小さな国際親善を見るようで、微笑ましく思いました。

3週間づつ、6週間という短い期間ですが、学生たちがこの友好関係を築き、将来も続けて、各国と日本の親交の懸け橋となってくれることを期待しております。



青少年短期交換広島研修

青少年交換委員会 副委員長 米澤 清和

7月22日(日)短期受入学生、ドイツ人5名、オランダ人5名、チェコ人1名、スコットランド人1名、短期派遣学生7名、ロータリアン4名、ROTEX1名の22名で広島研修に行っていました。

今年は記録的な猛暑で、学生の体調管理や、2週間前に起こった西日本集中豪雨の交通機関への影響など、心配な事案はありましたが、例年通り午前中に宮島、厳島神社、午後からは広島平和記念資料館に行きました。当日は、引き潮でしたが、海上に創られた社殿を関心をもって見学していました。37度という猛暑日で、中に

は海に入る学生がおり、驚かせられました。

宮島での昼食後、広島へ向かいましたが、JR在来線が西日本集中豪雨の影響で、1時間に2本の普通電車しか運行していなかったこともあり、かなりの時間を要してしまいました。その結果、午後からは広島平和記念資料館を1時間のみの見学になってしまい、受入学生には、残念なこととなりました。しかし、資料館では1時間集中して、戦争の悲惨さ、核兵器の恐怖、世界平和について研修していました。

日本が世界で唯一の核被爆国であることから、この短期受入学生の広島研修は欠かせない行事の一つだ、と考えております。

